



やはたっ子

全国学力テストをふり返って号
令和7年9月12日
八幡小学校

4月17日（水）に6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」が実施され、その調査結果が7月下旬に公表されました。その結果を生かし今後の改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善などを合わせて報告させていただきます。

【学力調査の結果】

★国語★

平均正答率は、全国や県の平均をやや下回る結果でした。

書くことに関しての正答率は全国や県平均と比べるとやや高い結果でした。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力がついてきています。しかし、漢字を文の中で正しく使う項目の正答率は低く、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することや情報の扱い方に関することに特に苦手さが見られました。

今回の結果から、既習漢字や図などによる表し方の理解といった基礎的事項の定着、文章の内容や要旨を捉えるといった読解力に課題があることがわかりました。

★算数★

平均正答率は、全国や県の平均をやや下回る結果でした。

学習指導要領の各領域（数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用）においては、全国平均と同程度に理解できていましたが、その反面、文章やデータから題意を把握し、問題を解決したり文章で表現したりすることに苦手意識をもつ児童が多く見られました。県や全国でも同様の傾向で、特に「数と計算」の領域における分数の計算方法を問う記述式問題では、正答率が低く、多くの児童が苦戦していた様子がうかがえました。算数科の問題の特徴として、複数学年にわたる学習内容が混ざっているため、既習の知識の活用が求められます。

今回の結果から、既習内容の繰り返し学習による学力の定着と、様々な問題に対して題意を読み取る力を育む必要があることがわかりました。

★理科★

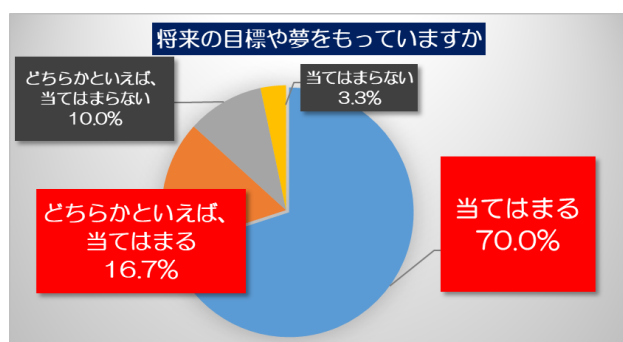
平均正答率は、全国や県より少し上回る結果でした。

学習指導要領の各領域（エネルギー・粒子・生命・地球）において、バランスよく理解できています。また、記述式の問題に対しても正答率が高く、身につけた知識が十分に活用できていると推察されます。理科の問題の特徴として、様々な金属について「電気を通す」「磁石につく」など、複数の性質を同時に考えて判断する力が求められます。

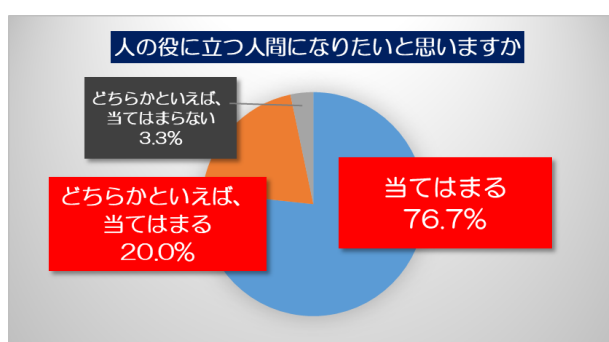
今回の結果から、「条件を整理して実験の計画を立てる力」「観察や実験を通して物質の性質を正しく理解する力」等、理科的な思考力を育む必要があることがわかりました。

【児童質問紙調査の結果】

《良好》 やはたっ子のポイントが高い項目



↑ 自己肯定感が高い児童が多いです。



↑ 自己有用感への意識がとても高いです。

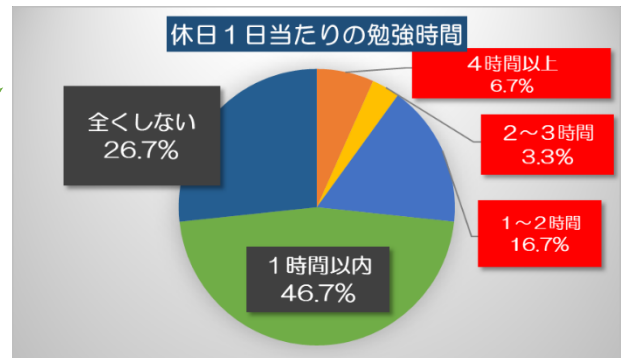
他には・・・

- ・朝食を毎日食べている・・・93.4%
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・・・93.4%
- ・人が困っているとき、進んで助けている・・・86.7%
- ・普段の生活の中で、しあわせな気持ちになる・・・86.6%
- ・学校に行くのは楽しいと思う・・・83.3%
- ・友だち関係に満足している・・・80.0%

《課題》 やはたっ子のポイントが低い項目

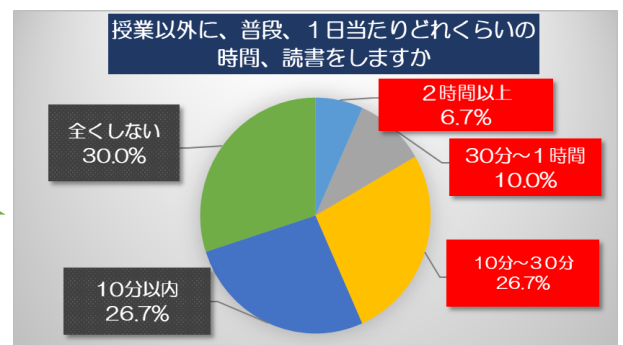
休日の学習習慣をつける必要があります

休日に2時間以上学習している児童は、全体の10%でした。これは、全国・県平均と比較すると下回る結果となっています。また、全くしないと答えた児童は27.8%、1時間未満と答えた児童は33.3%で、合わせると61.1%となっていました。



活字に触れる機会を増やす必要があります

今回の調査では、読書の好み、新聞を読んでいるかについて問われました。それぞれグラフの通りとなっており、活字に触れる機会が少なく（活字離れ）なっているようです。



【今後の改善策】

国語科では、今後の学習活動の中で引き続き、自分の考えをわかりやすく記述して説明する機会を多くとっていきたいと思います。また、算数科では、既習内容をもとに、思考して問題解決にあたることが課題であることから、繰り返し学習による基礎学力の定着を図ります。理科では、観察や実験等で得た学びを、単に知識だけでなく、実生活でどのように役立てるかについて考える機会を増やしていきます。加古川市では平成30年度より、東京大学大学院教育学研究科の藤村宣之教授が提唱している、児童一人一人が自分で答えを形成するための支援ができる学習法である「協同的探究学習」を進めています。今後も本市が取り組んでいる協同的探究学習を推進し「できる学力」とともに「わかる学力」の伸長に注力していきます。

質問紙では、良好項目として、友だちに対する思いやり、いじめに対する正しい認識をもち、人権意識の基礎が培われている児童が多いことが分かりました。今後も、児童に寄り添いながら、心の通った教育活動を進めていけるよう全職員が一丸となって取り組んでいきます。

一方、休日の学習時間や活字に触れる機会について課題がみられました。今後も継続して家庭学習や読書等の大切さを伝え、計画的に学習や読書に取り組む習慣を身につけさせたいと思います。また、家庭学習や読書の習慣を身につけさせるためには、ご家庭のご協力も大切になりますので、積極的な声掛けや励ましなどを引き続きよろしくお願いいたします。

さらに、本校の教育目標である『たくましく心豊かですすんで学びあう八幡っ子の育成』のためには、保護者の皆様、地域の方々の力が必要不可欠です。今後も八幡小学校の教育にご理解ご協力よろしくお願いいたします。

国語 問題3－二（2）

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) あたらし ↓ (平安時代) ア ↓ (今) あたらしい

時代とともに言葉の形が変わる。

どうせ ↓ どうしても、とうてい ↓ 非常に

(室町時代) (大正時代より前) (今)

イ

どうもどきどきない？

(1) 【木村さんのメモ】の **ア** の中に入る適切な言葉を【資料2】の中から書きぬきましょう。

(2) 【木村さんのメモ】の **イ** に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 世代によってもものの呼び方がちがう。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとにおさえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題です。選択式の正答は、1です。示された資料をもとに、要旨を理解する力が求められます。日頃から長文を読み込み、要旨をまとめたり話したりする学習活動を進めていきます。

算数 問題 3-(2)

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

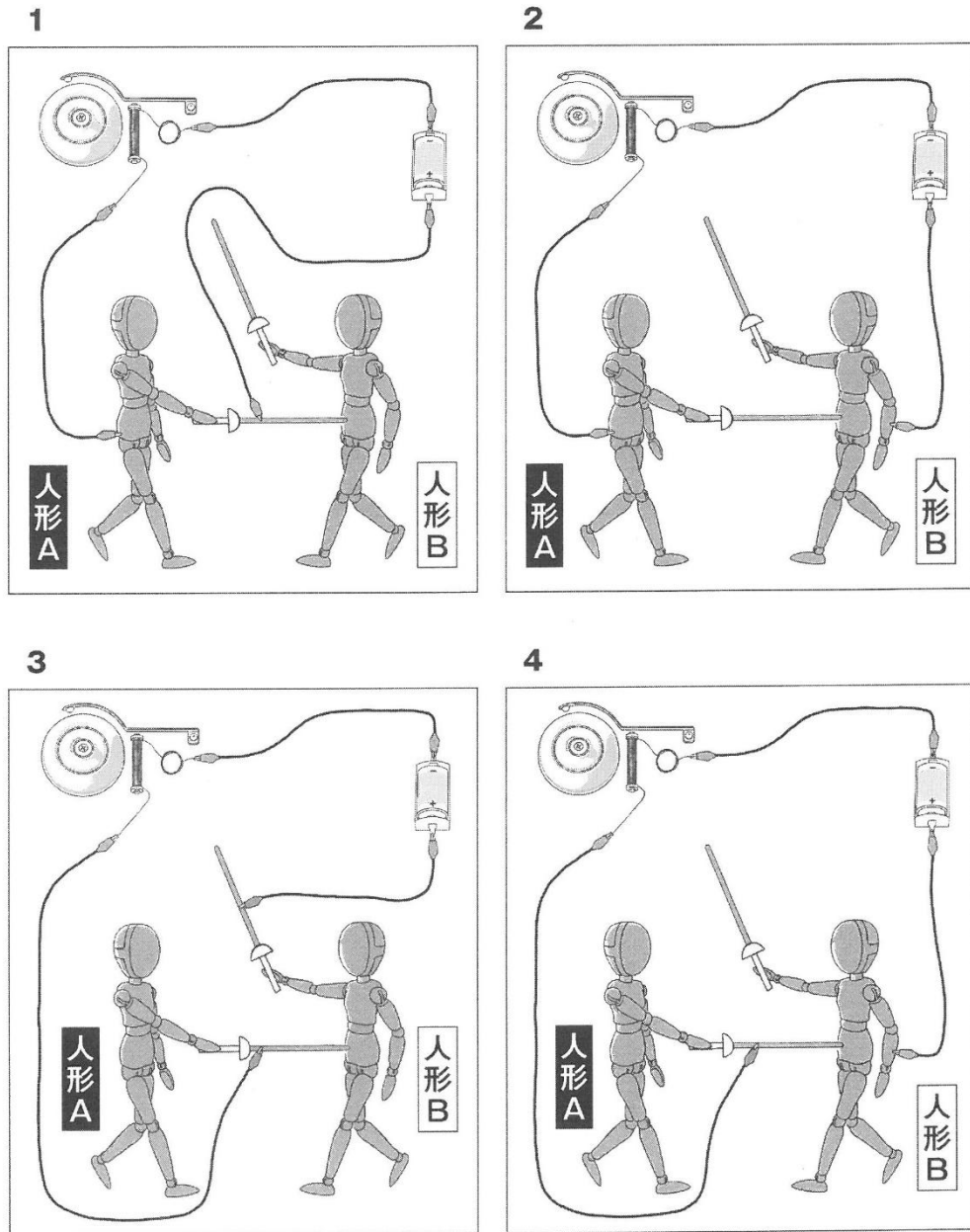
$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加える数と加えられる数が、共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。異分母どうしの加法・減法の計算を「通分」により答えを求めることはできますが、今回のように、それぞれの共通する単位分数を見出す考え方になると対応ができにくい児童が多く見られました。様々な角度から問題を捉え、理解が深められるような取組を今後も進めていきます。

理科 問題 2 - (2)

(2) 「人形Aの剣^{にんぎょう けん}を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題です。選択式の正答は、4の図です。電気を通す物と通さない物でできた人形について、それぞれの条件を整理して「回路＝輪になっている」ことの理解力・表現力が求められました。今後も、単に知識だけでなく、与えられた条件等を総合的に判断し、それを表現できるような取組を進めていきます。